

第2次裾野市環境基本計画の評価結果（令和2年度進捗状況）

1. 概要

「第2次裾野市環境基本計画」の令和2年度の環境に関する取組み内容の進捗状況について裾野市環境審議会（環境審議委員7名）において評価を実施。

実施日時：令和3年12月15日（水）

9：30～11：30

場 所：裾野市役所 第一委員会室

2. 評価方法

環境目標ごとに下記の区分で環境審議委員が評価。

区分	進捗状況
A	環境目標(2025年)を達成するために、順調に進捗している
B	一部遅れはあるものの、目標の達成が見込まれる
C	より一層の推進を要する

3. 結果

Aを3点、Bを2点、Cを1点とし、環境審議委員の評価点数の平均を評価基準に従い総合的に評価。全体評価は環境目標1～5の平均ではありません。

評価基準 A …2.5～3, B …1.5～2.4, C…0～1.4

環境目標	平均	評価
1. 【安全・安心】 安全・安心で快適な環境のまちづくり		
(意見) ○新型コロナの影響により行事の開催は困難であるが、市民一人一人の意識の高さが伺える。 ○単独浄化槽を下水道に接続することを強力に押し進めるべき。 ○屋外焼却の指導件数が減らないなど改善が進まない事案に対してどのような方策を今後進めて行くか。 ○安全な環境のまちづくりでは景観と防犯との連携が必要と考える。 ○市民1人1日平均有収水量削減の進捗が頭打ちとなっている。具体的な策が必要である。 ○コロナウイルス禍による生活様式の変化の中、参加者数を環境指標とする考え方自体を見直す必要がある。	2.1	B

<p>2. 【自然共生社会】 豊かな自然と人が共生するまちづくり</p>		
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナの収束により自然とのふれあいの場の提供を推し進めていく必要がある。 ○コロナ禍のためイベント参加者が減少したが、他の環境指標の進捗は概ね良い。 ○農地や森林の保護に関する環境指標については、目標を上回る数値となっているが、市が進めようとしている良好な景観形成と緑地の環境整備については市民の満足度が低い。ベクトルが同じ方向性を向いているか。 ○まちなみや自然景観の美しさ満足度が平成30年度をピークに減少している理由は。 	1.9	B
<p>3. 【循環型社会】 環境負荷の少ない循環を基調とするまちづくり</p>		
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○不法投棄苦情件数の削減が環境指標となっているが、苦情(通報)を市民からの地球環境に対する問題提起と考えると、これに対応した件数こそ指標にすべきと考える。 ○ごみの不法投棄に関心が高まる中で、今後不法投棄パトロールの推進や監視体制の強化を図って行く必要がある。 ○プラスチックごみの不法投棄も取り上げるべき。 ○市民1人1日当たりのごみ排出量が大幅に減少したことは大変良いことである。裾野市は海に面していないが、県が推進している「海洋プラスチックごみ防止6R運動」に今後どのように参画していくか。市内河川からのごみ流入に対して注意喚起していくと良い。 	2.6	A

<p>4. 【低炭素社会】 地球温暖化防止に努めるまちづくり</p>		
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○環境保全が叫ばれている中、目標達成率が伸びていない。再エネ機器や省エネ機器などは災害時の社会インフラとして意義があるものとその必要性を説く必要がある。 ○脱炭素に向けて目標数値にこだわることなく高い目標を掲げていくことが必要になってくる。 ○水素を燃料として使用できる技術を早々に開発すべき。 ○今後の温暖化対策の中で再生可能エネルギーの普及を推進する一方、公共施設への再生可能エネルギーの導入も検討されているか。 ○カーボンゼロ宣言に対するロードマップの検討。先進企業との連携。 	2.1	B
<p>5. 【環境教育】 持続可能な社会を実現するための人づくり</p>		
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コロナウイルス禍、可能な限りの環境教育の取り組みを行っている。 ○今後コロナの収束が見通せるようになったら、環境イベント等を通じて意識の高揚を図って行く必要がある。 ○誰でも解るSDGs講座を開催していただきたい。 ○環境について学ぶ機会を確保することは良いことである。市内の企業で貢献できる活動がないか、出前講座などで協力を求めているかどうか。 	2.0	B
<p>第2次環境基本計画 令和2年度進捗状況(全体評価)</p>		
<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コロナウイルス禍、急速な社会情勢に対応すべく環境指標の再考も必要と感じる。 ○環境指標の進捗状況については、おおむね良いと思う。 ○参加者人数を環境指標にした目標は新型コロナウイルスにより達成できないものが多くみられた。 ○依然、コロナの収束が見通せない中、環境意識の高まりは益々高まっている。環境教育を通じて持続可能な社会を作り上げていくことに力を注いでいくことが大事である。 ○環境指標について、今一步の進捗率の向上を望む。 ○きれいな街づくり、循環型社会の形成、温暖化対策など将来を担う子供達のために市民一人一人が裾野市の環境を守るという意識の醸成をどのように訴えていくか、これからの環境行政に期待する。 	2.0	B